

佐伯史談

第七十八号

「郷土史研究」誌
通算百号

昭和四十六年十一月十九日

佐伯史談会

事務局 佐伯市大字福徳宮龍護寺 羽根方

詩

ふる里讃歌

(つれづれなるまゝに)

山 田 平 之 丞 作詞

(そえがき)

遠山楼 山実みて
高嶺を月以登む
秋の秋の大き空
身したひらぎの望しほし

望しほしと流雲
ほしは霞に
(野村 井原)

城山ノ松 馬場の松
お書物蔵に和漢の書
鐘がなるなる養賢寺
鶴谷の城下 貳萬石

九十北浦の磯別松
浜辺に築く魚の山
番匠川にうつ網は
秋鷹にせく輪を描く

大艦隊泊てし海
佐伯の港の大あかぬ
鶴見蒲戸も火照りてし
駆の汽笛がよびかくる

磯別松をなれまて

秋鷹は又望山

火照りてはぐり

おかししのべは
はしなくも
袖に散りくる
露の玉

一筆も近況

本会顧問 山田定生にば、お
褒りなく北中區に悠々湖居を
築きまはれて、たが、去り夏の水
のころ縁境でこゝにばれお様哉、
西田病院に入院せよつてお寮
退院の後しばらく輪縁なき
とといふ状態、本日(十月北北
日)葉書と寄せられたのが
前掲の詩、以前に褒りすこ
健筆をふるおられるよう、祈
望してゐる。(羽)

本号内容

- ふる里讃歌(山田平之丞)……一
- 秋鷹(又望山)……二
- 御霊社(宮底社)(高宗三郎)……三
- 佐伯四圍(豊島町)(佐根貴一)……四
- 羽出浦(上屋)文子(安藤弥吉門)……七
- 水島(津野所)跡(復)……七
- 小引(運上)飯上(坂幸三)……七
- 室街と(河)水(河)水(保)……二二
- 私立鶴谷(菅)筆……二二
- 愛着 在(佐)藤(藤)藤(河)田(田)田(保)……二六
- 蘇 天(曾)鳥(原)そ(そ)長(所)へ
ナリシ(田)史(地)と(歩)く……二八
- 文 高(木)森(吉)
傳(高)亦(光) 筆
- 外・鏡(岫)と(歩)く・水(谷)と(訪)う 外